

第37回東海外来小児科学研究会のご案内

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度下記の要領にて第37回東海外来小児科学研究会を開催します。春の研究会は講演、秋はワークショップとなっておりますので、今回は3つのワークショップを企画しました。それぞれ異なったジャンルですが日常診療で役に立つ内容と思われまます。医療関係者であれば参加の制限はありませんので、多数のご参加をお待ちしております。

敬白

【開催要綱】

日時：令和元年11月24日（日）

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち

〒450-0002

愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

TEL：052-571-6131

FAX：052-571-6132

<http://www.winc-aichi.jp/>



【WSのテーマ】 13時30分～16時30分 （13時開場）

- WS1 園・学校での感染症の危機管理と出席停止の扱い
- WS2 外来処置・指導の工夫
- WS3 患者教育のためのコミュニケーションスキルを楽しく学ぼう
～明日から使えるカウンセリングスキル～

1. 当日WS参加費として、医師の方は3000円、医師以外の方は1000円受付で申し受けますのでご了承ください。
2. 総合討論はありません。
3. 小児科専門医制度の認定単位はありません。
4. 参加希望者は、事務局（ひだかこどもクリニック FAX：0562-57-2338）までFAXでお申し込み下さい。
5. 研究会終了後、情報交換の場として懇親会を予定します。（事前予約制） ふるってご参加下さい。

東海外来小児科学研究会世話人

愛知県（担当県）	日高啓量（代表）	近藤康人	佐野洋史	鈴木研史	千原 克
	川井 進	日比将人			
岐阜県	矢嶋茂裕	浅井俊行	木全かおり	蜂谷明子	
三重県	落合 仁	梅本正和	西村美鈴	近藤 久	上荷裕広

主催 東海外来小児科学研究会

第37回 東海外来小児科学研究会 各WS参加申し込み書

申し込みされるWS番号に○をつけてください

WS1 園・学校での感染症の危機管理と出席停止の扱い

WS2 外来処置・指導の工夫

WS3 患者教育のためのコミュニケーションスキルを楽しく学ぼう

～明日から使えるカウンセリングスキル～

申し込み日時 月 日

氏名： しめい（ひらがな）：

所属施設： 職種：

連絡先（FAX）：

連絡先（メール）：

* 参加が承認された方には各WSリーダーより後日連絡が入ります。

連絡がない場合は、各WS担当者まで一度確認のご連絡をお願いします。

* 各WSの事前アンケートへのご回答もよろしくをお願いします。

***WS終了後、名駅周辺で全体の懇親会を予定しています。(完全事前予約制)**

下記で、希望する・考え中に○をつけられた方のみ、後日改めて詳細のご

連絡と参加の意思確認をさせていただきます。 ○をつけてください。

懇親会へ参加を 希望する 希望しない 考え中

WS1 園・学校での感染症の危機管理と出席停止の扱い

リーダー : 落合 仁 (三重県)

コメンテーター : 国立三重病院 小児科 菅 秀

サブリーダー : 佐野 洋史 (愛知県)

今回感染症の危機管理に関して、麻しんを取り上げてみたいと考えます。

麻しんは五類感染症に分類されていますが空気感染で伝播し感染力も強いいため感染法上直ちに届け出ることになっています。

2015年3月世界保健機関により日本は麻しんの排除状態と認定されました。

全数報告が始まった2008年以降2009~2017年にかけて激減しましたが、2018年以降海外からの持ち込みを端緒に沖縄県・福島県・福岡県・大阪府など全国各地でアウトブレイク事例(アウトブレイクの定義: 2例以上の疫学的ウイルス学的あるいは両方で関係している症例が認められた場合)が報告されています。2019年1~2月三重県においてワクチン接種率が低い集団における集団発生事例が発生し、二次感染の多くが学生で、学校における多数の接触者が発生しました。短期間に広範囲に感染が拡大したことは教訓的な事例と考え、本WSでも麻しん等発生時の各県・各地域の対応を討論したいと思います。併せて感染症の学校保健安全法をもとに設定されている登園登校停止に関する日常診療の対応を考えてみたいと思います。

アンケート

所属（ ）県（ ）市・町

年齢（ ）歳

◎関係者間の情報共有に関して

①各県に設置されている麻しん風しん対策会議をご存知ですか

（ ）はい

（ ）いいえ

②地域で発生した患者や接触者の対応に関する行政の窓口は
管内保健所になっていますか

（ ）はい

（ ）いいえ

◎地域での対応に関して

③ a. 地域で関係者会議は設置されていますか

（ ）はい ⇒ 定期的に行われていますか（ ）はい（年 回）

（ ）いいえ

（ ）いいえ

b. 先生は構成委員になっておられますか

（ ）はい

（ ）いいえ

◎医療関係者と学校関係者との情報共有に関して

●学校で感染者が発生した場合、地域でどのように対応しておられますか

（学校保健安全法第 19 条学校保健安全法施行令第 6 条・学校保健法施行規則
第 19 条に準じておられますか）

自由記載

自由記載欄

出席停止に関して

①厚生労働省の保育所における感染症対策

ガイドライン（2018.3）をご存知ですか

- （ ）はい ⇒ （ ）活用している
（ ）活用していない
（ ）いいえ

◎インフルエンザの出席停止に関して

②地域で出席停止基準を定めておられますか

- （ ）はい
（ ）先生独自の基準で対応

◎インフルエンザ以外の学校において予防すべき感染症

③第二種の基準を定めておられますか

- 百日咳 （ ） 結核 （ ）
麻疹 （ ） 髄膜炎菌性髄膜炎 （ ）
おたふくかぜ （ ）
風しん （ ）
水痘 （ ）
咽頭結膜熱 （ ）

◎その他の感染症に関して

学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り、校長が学校医の意見を聞き、第三種の感染症としての措置をとることができる感染症。

④地域で出席停止基準を定めておられますか

- （ ）はい
（ ）先生独自の基準で対応
- 感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス） （ ）
サルモネラ感染症 （ ） カンピロバクター感染症 （ ）
マイコプラズマ感染症 （ ） インフルエンザ菌感染症 （ ）
肺炎球菌感染症 （ ） 溶連菌感染症 （ ）
急性細気管支炎（RSウイルスなど） （ ）
伝染性紅斑 （ ） EBウイルス感染症 （ ）
単純ヘルペス感染症 （ ） 帯状疱疹 （ ）

◎迅速検査を診断にあたり活用されていますか

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> インフルエンザ | <input type="checkbox"/> ノロウイルス |
| <input type="checkbox"/> A群β溶連菌 | <input type="checkbox"/> アデノウイルス |
| <input type="checkbox"/> RSウイルス | <input type="checkbox"/> 水痘带状疱疹ウイルス |
| <input type="checkbox"/> ヒトメタニューモ | <input type="checkbox"/> 単純ヘルペスウイルス |
| <input type="checkbox"/> ロタウイルス | |
- 迅速検査は必要ないと思う

◎学校での VPD 感染症拡大を防ぐために集団免疫をあげることが重要と考えます

先生の地区で定期接種の勧奨にあたり、行政から個別通知は実施されていますか

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> Hib | <input type="checkbox"/> 小児用肺炎球菌 | <input type="checkbox"/> B型肝炎 |
| <input type="checkbox"/> 四種混合 | <input type="checkbox"/> MR I | <input type="checkbox"/> MR II |
| <input type="checkbox"/> 水痘 | <input type="checkbox"/> 日本脳炎 | <input type="checkbox"/> 二混 |
| <input type="checkbox"/> 子宮頸がん | | |

●先生方の地域で接種洩れ者に対する対策があればお教え下さい

[]

◎定期以外の任意接種の勧奨はされていますか

- | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ロタ | <input type="checkbox"/> 三種混合 | <input type="checkbox"/> ポリオ |
| <input type="checkbox"/> おたふくかぜ | <input type="checkbox"/> インフルエンザ | |

ご協力ありがとうございました

<FAX 返信先> 0595-83-0127 落合小児科医院

WS2 外来処置・指導の工夫

リーダー：日比将人（医、オーシャンキッズクリニック、知多市）

サブリーダー：矢嶋茂裕（医、矢嶋小児科小児循環器クリニック、岐阜市）

小児外来診療では、様々な外来処置が必要になります。点滴、採血、吸引、吸入、浣腸、排便、軟膏処置、創処置などなど。また、服薬指導、外用指導、食事指導など指導についても、日常診療に欠かせません。「こども達を早く健康にするため」という目的は同じなのですが、「所変われば品変わる」とはよくいったもので、各施設において、そのやり方は様々だと思えます。今回の WS では、各施設が行っている処置や指導を、実際に使用しているツールも含めて紹介していただき、困っている点や工夫している点などを共有できればと思っています。

<下記 URL から、アンケートの回答をお願いします。>

アンケートの URL

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdpN57pbEQucXl3GyQD-jtfhG0iJFc-ANyKFCeV2wAdYIv78Q/viewform?usp=pp_url

問い合わせ先： オーシャンキッズクリニック 日比

WS3 患者教育のためのコミュニケーションスキルを楽しく学ぼう ～明日から使えるカウンセリングスキル～

メディカルスタッフ対象のワークショップ（参加制限はありません）

リーダー	上荷裕広	（薬 すすらん調剤薬局	三重県亀山市）
サブリーダー	千原 克	（医 ちはら小児科	愛知県名古屋市）
	鈴木研史	（医 竜美ヶ丘小児科	愛知県岡崎市）
	西村美鈴	（看 近藤小児科医院	三重県桑名市）

<要旨>

みなさんは外来での患者指導において、このような経験はありませんか？

「ステロイド軟膏をしっかりと塗って欲しいのに…スキンケアもするように指導したのに…ちゃんと塗らないからまた悪化して…」

「発作がなくても毎日吸入するように言ったのに…また発作を起こしちゃって…」

「子どもに薬の管理を任せっきりにするから…全然飲んでいないじゃない！」

…などなど、クリニックや薬局で治療法や薬の必要性について、丁寧に説明や指導をしたにも関わらずなかなか実行してくれない、いくら言っても聞いてくれない…このような困った事例に対して私たちはどのように対応すればいいのでしょうか？

去年の当会ワークショップに集まったメディカルスタッフの意見を集約した際に、たどり着いた答えこそが「コミュニケーションスキルを学ぶ」ことにあると考えました。

“コミュニケーションスキル”と言っても単なる“接遇”ではなく、患者教育において必要な“コミュニケーションスキル”を習得することを目的としています。

アレルギー疾患などの継続治療においてアドヒアランスの低下がみられた場合には、治療行動を阻害している要因をアセスメントし、それぞれに適した対応を行う必要があります。その中で重要な役割を果たすのが“カウンセリングスキル”であり、患者教育を行う上でも基本的なスキルとなるため。

今回のワークショップは研修型ではありますが、参加された皆さんにはゲームを通じて体験しながら学んでいただくことを目指していますので、一緒に楽しく体験しながら“明日から使えるカウンセリングスキル”を習得してください。

<以下のアンケートにご記入の上 FAX にて返信願います>

御氏名) _____

御施設名) _____

職種) _____

メールアドレス) _____

(記入欄が少ない場合は別紙に記入の上、返信いただいても結構です)

Q1、今回このワークショップに参加しようと思った理由を教えてください。

Q2、あなたが患者教育で一番大切だと思うことは何ですか？

Q3、患者教育で困っている事例がありましたらご記入ください。

簡単で結構ですので具体的にご記入ください。(年齢、疾患、困っている内容など)

Q4、なかなか言うことを聞いてくれない患者さんに対してどのような指導を

行っていますか？その時に注意していることがありますか？

またクリニックにおいて患者教育で工夫しているアイデアがあればご記入願います。

ご協力ありがとうございました。

<FAX 返信先> 0594-32-5558 近藤小児科医院 担当 西村